

学界情報

The IEEE International Electrical Machines and Drives Conference, IEMDC 2007 May 3-5, 2007, Concorde Resort & Spa, Antalya, Turkey

IEMDC2007が、5月3日～5日の間、トルコ共和国アンタルヤで開催された。IEMDCは、International Electrical Machines and Drives Conferenceの頭文字を取った略語であるが、今日では、略語のほうが通りがよい。IEMDCは、文字通り、モータとモータ駆動制御に関する諸技術に特化した国際会議である。同類コンセプトの国際会議は、他にもあるが、IEMDCはこの種の国際会議として最高レベルを目指して企画され、著者の個人的な印象では、これを達成していると思う。会議の主催団体は、IEEEの関連4部門(Power Engineering Society, Industrial Electronics Society, Industry Applications Society, Power Electronics Society)である。IEMDCは隔年開催の会議であり、これまでは米国内で開催されてきたように思う。第6回開催である今回初めて米国外に出て、出先がトルコ・アンタルヤであった。

アンタルヤは、日本人には馴染みが薄いように思われるが、ヨーロッパでは、地中海を臨むリゾート地としてつとに有名のようである。トルコ人の言によれば、トルコ人自身のリゾートの出先は、アンタルヤだそうである。アンタルヤは、リゾート(Laraと呼ばれる海岸地区に集中)に加えて、紀元前後の多数の遺蹟を有する歴史の街でもある。下の写真1は遺蹟の1例で、海拔1000m級の山頂に残る廃墟(Termessosと言われる)の中の石造劇場である。

IEMDC2007は、地中海を臨む砂浜を有するリゾートホテル(Concorde Resort & Spa)で開催された。ホテルサービスには、ビーチ、プール、スパの利用と食事(深夜ルームサービスを含む)、ドリンク・スナックとが付いており、主催者側では、会議参加者及び同伴者のこの方面の世話の要がなく、この点に関しては気楽であったのではないかと思う。

現地世話役の言によれば、論文申込が516件、採択論文が277件で、採択率は54%だそうである。また、Special Session(Organized Session)関連の論文が33件あり、全論文数は310件だそうである。参加国は、世話役のトルコを除き、50ヶ国である。まさに国際会議と呼ぶに相応しい、国際色豊かな会合であったと思う。その中で、日本人の参加者は、6、7名ではなかったかと推測している。お隣の韓国、中国の半数を遥かに下回るとの印象を個人的には受けた。PCC-Nagoya直後とは言え、淋しい限りである。

セッションは、Plenary 3, Special 6, Oral 41, Poster 2で構成されていた。著者にとって聞きごたえのあったのは、R.D.Lorenz教授による“The Status and Future of Self-Sensing in Motor Drives”であった。モータのみならず、インバータを含めたシステム全体としてのSelf-Sensingの将来を、熱意をもって語っておられた。

各セッションの司会者は正1名であり、副も無ければ、司会者とpresenterとの会食も無かった。また、Oralでのプロジェクターの準備、Posterでの画紙・テープの準備も万全ではなく、会議進行は上等とは言い難かったと思う。会議運営に関する全般的な印象として、今回のIEMDCは、General ChairのO.Kaynak教授とTechnical Program ChairのH.L.Hess教授による獅子奮迅の個人的活躍に依存したように思われる。何故、組織的な対応を取らなかったのか、あるいは取り得なかったのか、考えさせられた。

下の写真2は、会議2日目に入り落ち着いた受付の様子であり、写真3は、パンケットで披露されたご当地自慢のベリーダンスの様子である。なお、次回のIEMDCは、2年後フロリダの予定である。

新中 新二(神奈川大学)
(平成19年5月12日受付)



写真1 Termessosの廃墟



写真2 2日目の受付



写真3 パンケットでのショー